

## 留学報告書

### 1、留学の概要

2020年2月から7月にかけての半年間、スイスの École polytechnique fédérale de Lausanne (EPFL) に交換留学をし、Materials Science and Engineering を学びました。

新型コロナウイルスの影響で3月下旬から7月まで大学には入れず、オンライン授業が行われました。

### 2、EPFL を選んだ理由

第一に、私の専攻である材料工学を世界のトップクラスの大学で学びたかったこと。そして、スイスは欧州の中心に位置するため、集まる学生の多様性に特徴があることから、海外留学の目的の一つである異文化経験や多様な文化背景の学生と母国語以外でコミュニケーションを重ねることができると考えました。



EPFL キャンパス内の景色

### 3、留学選考・奨学金・準備

工学部の OICE の交換留学に参加しました。全学交換留学と比べて、メリットとしては申込締切の時期が遅いこと、デメリットとしては選べる大学の数が限られていること、があげられます。OICE の選考では TOEFL のスコア提出や、英文の留学計画書を書いたり英語の面接を受けたりしました。2020年2月出発予定でしたが、留学が決まったのは2019年の9月~10月ごろでした。

私は学部3年生になった時(2019年4月)に留学に行きたいと思い、準備を始めました。TOEFL の準備をするのがギリギリで、受験は一発勝負となってしまったので、他の先輩方もおっしゃっていますが、余裕をもって受験することを強くおすすめします！

また、留学をするにあたって留年をせずにすむよう、学科の先生方と何度も相談させていただきました。

奨学金は JASSO から月に 8 万円を受給していました。JASSO の奨学金は留学に行くことが決まってから受給申請などを行いました。それまでの成績を提出するのですが、進学選択(進振り)前の成績が悪くても進振り後の成績が良ければ受給できる可能性もあるので諦めてはいけません。

8 万円は寮費としてほとんど消え、留学先での生活資金としては足りないので、余裕をもって留学計画を立てて JASSO 以外の奨学金を申請すると良いと思います。

私はスイスに銀行口座を開設せず、クレジットカードとデビットカードを 2 枚用意しました。ヨーロッパのクレジット決済は ID チップをタッチする方法が主流のようなので、チップ入りのカードを用意すると便利です。

スイスのローザンヌはフランス語圏です。私は一度もフランス語を勉強したことがなかったので「初めてのフランス語」のような本を買って少し勉強してから渡航しましたが、大きく役に立ったわけではありませんでした。EPFL では大学の授業が始まる前に、Language center で 2 週間のインテンシブコースに参加できるので事前に申し込んでおくが良いです。基本的な挨拶、日常生活における簡単な文章がわかるようになります。もちろん、習熟度別なのでハイレベルなクラスもありました。

EPFL 側との留学申請手続きが終わると、学生寮の案内が FMEL(学生寮を管理している団体)からメールで届きます。交換留学生は優先的に寮に入ることができるので自分でゼロから家を探す必要はありません。メールの指示通りに手続きをし、入寮日を決めると数週間後に入寮可能な寮および部屋を一覧で見ることができます。早い者勝ちのようなので、部屋を選べる期間になったらすぐに申し込みました。

#### 4、渡航後の手続き

スイスでは Visa ではなく Resident permit の申請を行います。申請方法や必要な書類などウェブサイトを書いてありますがとてもわかりにくいです。私はスイスに到着したあと、フランス語圏で Contrôle de habitants と呼ばれる各地域の役所に行って必要書類を教えてもらいました。ですが、日本から取り寄せなければならない書類(英文の銀行口座の証明)もあったので事前に準備しておくのが賢明でした。

他には、保険の手続きや住民税免除申請などが必要でしたが、渡航後に送られてくる書類は基本的にすべてフランス語だったので理解するのに苦労しました。

スイスの鉄道 SBB の駅で Half fare card(有効期限 1 年)を購入するとほぼすべての交通機関が半額になります。スイスの交通機関は日本では信じられないほど高いので Half fare card は必須ですし、半年間の滞在でもすぐに元が取れます。購入時には顔写真が必要なので日本から持参すると良いです。

#### 5、学業について

授業は講義とグループプロジェクトの 2 つに分かれているものが多く、一コマ 50 分、休憩 10 分で

集中力を保ちやすかったです。講義の内容は最先端の技術や近年注目されているトピックに関するものが多くありました。

コロナの影響によるオンラインへの移行は非常にスムーズに行われ、オンラインシステムが整備されており、実験ができなかったこと以外は支障なく学業に専念することができました。グループプロジェクトでは学生同士、Zoomで議論をし、意見を出し合い、発表を行いました。現地の学生の語学力の高さに驚き、プロジェクトへの取り組み方からも良い刺激を受けました。

英語で大学の授業を受けるのが初めてだったので理解するのに苦労しました。また、英語の論文もほとんど読んだことがなかったので特に最初のころは専門用語をすべて日本語に訳していました。ですが、授業の予習復習をして、プレゼンはスクリプトを用意することで徐々にアカデミックな内容について英語で話せるようになりました。



Materials Science and Engineering がある建物のエントランス

## 6、留学生として

EPFL では 1 セメスターで 100 人以上の交換留学生が来ていて、留学生同士の交流、コミュニティが多くあります。ESN という学生団体や大学が留学生向けのイベントをたくさん開催してくれるので、すぐに世界中から集まった留学生の友人ができました。バックグラウンドの違う者同士が集まると、コミュニケーションの取り方や考え方、行動の仕方などがとても多様でした。日本以外の文化を知ること、日本が他の国とどう違うのかを考えたり、日本の良さ・悪さを感じたりしました。海外の人と交流する際、英語を自在に使えず、自分の意見を言えなかったり相手の意見をくみ取れなかったりして悔しさやもどかしさをおぼえ、言葉の壁を痛感しました。また、日本に興味を持っている学生に思いのほか多く会い、日本の文化・歴史・社会などについて聞かれ、自分をもっと日本のことを知るべきだとも思いました。

## 7、学生寮について

FMEL にはいくつもの寮がありますが、私は EPFL のすぐ隣にある Atrium という寮の Flat share for 4 people の部屋にしました。玄関入ると 4 人の共有スペースであるダイニングがあり、その奥に個々の部屋があり、プライベートのシャワートイレが付いていました。家賃は 757 フランで学生寮の中では高い方でした。スイスの銀行口座がある人はオンラインで家賃の振り込みが可能ですが、私は日本の銀行口座しかなかったので毎月、郵便局まで行き、振込用紙を記入し、現金で支払っていました。寮の下にはスーパーマーケットがあり、Atrium はメトロの駅前に立地しておりとても便利でした。スイスでのフラットシェアは男女混合が普通です。私のフラットはチェルニジア人、イタリア人、スイス人、日本人と国籍もバックグラウンドもばらばらの 4 人でした。私以外の 3 人はフランス語を話すのですが、私の前では英語を使ってくれますし、たまにフランス語の会話を聞いてみたり、社会情勢や日本についての議論をしたり、とても楽しかったです。



Atrium

## 8、スイスでの生活について

- ・治安…日本と同じくらい良い。夜に女性が 1 人で歩いている・電車に乗っていることは普通。街も綺麗。
- ・物価…特に外食と運賃が高い。スイスのマクドナルドの時給が日本の 3 倍らしく、それ相応に外食の価格も高かった。スーパーマーケットではパンや野菜は日本と同じくらいかそれより安く買えるが、肉類魚類は 1 パック 1000 円以上する。学食は 1000 円くらいかかる。
- ・言語…スイスは西部がフランス語、南部がイタリア語、それ以外がドイツ語。国内では 3 か国語で表記されているものがほとんど。英語表記は少ないが、英語は通じることが多い。特に学生は母国語+英語+フランス語またはドイツ語を話せる人が多い。
- ・娯楽…スイスの観光地として有名な山岳エリアでのハイキングはじめ、氷河を見に行ったり、中世から残る街を訪れたりした。留学の醍醐味のひとつとして、海外旅行では時間が足りずに行けないであろう山奥の大自然や小さい町を訪れることができた。

## 9、さいごに

コロナの影響で今までのような留学体験は得られなかった中でも、留学の目的であった、EPFLで材料学を学ぶことと多文化を経験することを達成でき、半年間のスイス滞在は自身の価値観に大きく影響を与えました。日本とは異なる働き方や人生の過ごし方をみて私はどうしたいのかを考えるきっかけにもなりました。海外で日本がどのように見られているのか、肯定的な意見も否定的な見方もある中、私はより一層、日本人としての誇りを大事にしたいとも思いました。

留学をするにあたって支援してくださいました東京大学と EPFL の関係者の方々、日本学生支援機構、家族、友人に感謝申し上げます。



Jungfrau area のハイキングコース



St. Saphorin (レマン湖沿いの歴史ある小さい町)